

令和3年度 第3回浜松市市民協働推進委員会

日 時：令和3年12月27日(月)午後2時～午後4時35分

場 所：浜松市役所 本館8階 第5委員会室

出席者：木村佐枝子委員長、須山嘉七郎副委員長、加藤小凜委員、鈴木春光委員、
成瀬記言委員、橋本成美委員、廣瀬稔也委員、古橋理委員、村木則予委員

報道関係：0名

傍聴者：0名

事務局：奥家市民部長、藤田市民部次長、松下市民協働・地域政策課長補佐、
氏原主幹、鈴木康太主任、梶浦主任、吉原、菅谷、高橋

会議次第

1 開会

2 議事

- (1) 浜松市企業のCSR活動表彰の選考について
- (2) その他

3 閉会

1 開会

事務局： ただ今から、令和3年度第3回浜松市市民協働推進委員会を開催する。
本日は、オブザーバーの今中センター長から欠席される旨の連絡をいただき
おり、9人の委員で会議を進める。

本日の終了時刻は、16時30分を予定している。

それでは、ここからの議事進行は、木村委員長にお願いします。

木村委員長： 初めに、本会議の公開・非公開について確認する。事務局から説明をお願い
したい。

事務局： 今回のCSR活動表彰の受賞企業は、当委員会の審査を経て市長が最終決定す
るもので、決定前に受賞候補企業が公開されてしまうことを避けるため、各企
業の説明、質疑応答が終わったら、傍聴人・報道関係者には退室していただき、
以降の審議は非公開で行うこととしたいが、いかがか。

—委員一同異議なし—

事務局： 委員の皆さんから同意をいただいたので、本日の会議は一部非公開で行う。
本日は傍聴希望者、報道関係者がいないため、このまま議事に入る。

2 議事

(1) 浜松市企業のCSR活動表彰の選考について

木村委員長： 本日はCSR活動表彰の選考をしていただく。

まず、選考方法や留意点、仮採点結果について、事務局に説明を求める。

※選考方法、留意点、仮採点結果について説明。

受賞者は、本日の結果を踏まえて、1月中旬頃に市長が最終決定する。

今年度は応募数が22件と昨年(15件)より多く、すべての案件をこの場で説明・
審議・採点することは時間的に難しいため、事務局にて事前に11企業に絞つ
た。この11企業以外に委員の皆様が内容を聞きたいという企業があれば、その
企業についても説明や質疑を行う。

※事前に事務局が選んだ11企業を伝える。

その他の企業についてはこの場での説明は行わないが、事前審査をもとに審査
シートの点数を確定させて提出していただきたい。

木村委員長： 事務局から説明があったように、浜松市企業のCSR活動表彰実施要綱第7条
第2項により、応募企業と近い関係性を有する場合は、当該企業の選考に加
わることができないとされている。該当がある委員は、申し出をお願いしたい。

〔 加藤委員と廣瀬委員から近い関係性を有する企業からの提案があるとの申し出あり。〕
該当する企業の選考の際は、一度退出していただく。

事務局： それでは、1件ごとに選考を行う。1件につき5分で進行していきたい。

【各企業の活動について審議】11件

木村委員長： これより審査、受賞候補企業の選定に入る。ここから、受賞企業の選定に入
るが、事務局の選定した企業の説明が終わったが、この11社以外に追加で説明
を聞きたい企業はあるか。

橋本委員： テイボー(株)の説明を聞きたい。小学生の頃、この企業がフェルトペンのペン先で世界一だという話をされたのを十数年経った今でも覚えている。先日科学館に行った際、テイボー(株)さんの展示を見た。自分たちの事業を説明していると言ったらそれまでなのだが、そもそも CSR 活動とは自分たちの事業を活用して社会にどう貢献できるか、影響を与えるかということではないか。日本一、世界一の会社が浜松にあるということは、子どもたちの記憶に残る。地方都市の人口流出が懸念されているが、浜松には世界を相手に活躍できる魅力的な企業があると知ってもらうことは非常に大きいのではないかと。エネジン(株)さんも「浜松はいいところ」だということを知ってもらおう「郷土教育」に繋がるということで素敵な CSR だと思う。もう一点、パイフォトニクス(株)さんの活動はマスコミにも取り上げられ、「コロナ禍ならではの」の活動で、今ならではの、時代に合った CSR であると思う。

須山副委員長： 今までになくバラエティに富んだ提案が出ているなどと思った。例えば小規模校と協力している企業、テイボー(株)さんももちろんそうだが、サンクチュアリジャパンと組んだり、いろいろな活動内容が見られた。その中で、初めて「絶滅危惧種」についての活動の応募があった。9 番の大和ハウス工業(株)と 20 番の(株)フジヤマがこれに当たり、特に 20 番は浜松南高校の生物部と組んで活動しているとあるので、この企業について説明していただきたい。

事務局： それでは、橋本委員からの 2 企業と須山委員からの 2 企業を説明する。他に説明を希望する企業はあるか。

加藤委員： 16 番のパイフォトニクス(株)さんは橋本委員の言うように今ならではの活動であるが、継続性を考えたとき、コロナが収まったらどうなっていくのか。期待するところでもあるが、もしわかっていたら教えていただきたい。

事務局： それでは今意見の出た 9 番の大和ハウス工業(株)、10 番のテイボー(株)、16 番のパイフォトニクス(株)、20 番の(株)フジヤマについて説明する。

※事務局、9・10・16・20 番の企業について説明

木村委員長： 他に何か意見はあるか。

村木委員： どういうふうに社会問題の内容を認識しているのか、活動の目的が明確でないため、審査がしにくい。活動のきっかけは皆違うので評価できるものではないし「活動している社員の意識」という項目を「意識が低い」と書くところはないと思われる。評価が上滑りしている可能性がある。審査のやり方がすっきりするとよい。問題の社会認識をどういうふうにして、こういう活動をしたらこういう効果があった、というロジカルな審査方法にするべきだ。

鈴木委員： 活動が多様化しているので、どこに基準を置くかが難しい。応募の常連企業と新参の企業との差もあり、より審査が難しくなっている。

事務局： 次回は、こういう活動をしたらこういう効果があった、というような応募様式にすることを考えていきたい。審査がしやすいばかりでなく、応募する方からもわかりやすいものになると考える。

事務局： この制度は、CSR 活動を企業の中に風土として根付かせるためのスタートアップのための制度であったので、これまでは活動の質を問うよりは、できるだけたくさん手を挙げて欲しいという思いだった。しかし、応募企業が劇的に増えることはない。質を見ても、毎年応募していて年々ブラッシュアップしている企業と、同じ活動を地道に長年続けている企業とに分かれている。

今年度は応募が多かったが、入札の時にインセンティブがある制度を設けたことが企業に響いたのではないか。まずは CSR 活動を始めてもらい、その中でブラッシュアップしていく企業については Star Prize 制度で評価していく、という段階を仕立てたものにしていく。

草刈りなどは活動の基本であり、それだけでは足りないように感じるというご意見はそのとおりなのだが、それをきっかけに CSR 活動を根付かせ、長年取り組んで手を挙げてきてくれたという点では歓迎するものであるので、優秀賞に値するものではないとしても、入賞という形で評価していくのも一つの見せ方だと考えている。

採点のしづらさについても見直しを図りたい。応募企業と書類を受付する中で、事務局が色々と突っ込んだ質問をしていくので、そのやり取りの中で事務局がどういう点に着目しているのか、その企業の活動は入門的なものなのか発展的なものなのかを企業に伝えていくことも大切だと考えている。

木村委員長： 以上で 15 件の審議が終わったので、この場で説明を行っていない 7 企業を含めて、全体を通じて採点の最終確認をする時間を設ける。時間は、5 分程度でお願いしたい。採点が終わった委員は挙手し、審査シートを事務局にお渡しいただきたい。

【採点の最終確認】

木村委員長： 集計作業のため、休憩に入る。

【休憩】※事務局：集計作業

木村委員長： 会議を再開する。受賞企業の候補を決めていきたい。

まず、集計結果について、事務局から説明を求める。

※集計結果について説明。

事務局： 30 点以上が受賞候補となる。22 件全てが 30 点以上という結果となったため、全ての企業が受賞候補となる。

木村委員長： 優秀賞、特別賞、市民協働奨励賞、StarPrize 制度による認定企業の候補を審議していく。事務局から説明を求める。

【事務局】優秀賞、特別賞、市民協働奨励賞について説明。

—非公開部分—

以上で、「(1)浜松市企業の CSR 活動表彰の審査について」の議事を終了する。

(2) その他

木村委員長： 事務局からその他の連絡事項等があればお願いしたい。

事務局： CSR活動表彰については、受賞企業が決定したら報道発表するとともに、3月17日(木)に開催される「CSRシンポジウム」にて市長から表彰状を授与する運びとなっている。

 次回の開催は3月20日前後を予定している。委員の皆様には追って日程調整の連絡をお送りする。

事務局： 終了予定時刻をだいぶオーバーしてしまったが、原因は集計作業に時間がかかりすぎたためである。村木委員からは、採点のしづらさについて制度的に見直しをした方がよいのではないかというご意見もいただいた。それについての見直しを図ると共に、集計についても、自動化するなどして時間の短縮を図りたいと思う。来年度の審査の時には必ず実現させることを約束する。

古橋委員： 採点の資料の中で、参考書類の中の企業の順番と、採点表の順番が違うものがあり、見づらいので、その点についても改善していただきたい。

事務局： 承知した。

木村委員長： 以上をもって、令和3年度第3回浜松市市民協働推進委員会を閉会する。